

特別活動における合意形成・意思決定、 学級活動、児童会・生徒会活動 及び高次の資質・能力について

1. 合意形成・意思決定及び 学級活動、児童会・生徒会活動について

検討の前提

本日ご議論いただく各種整理については、より良い合意形成や意思決定を目指していく上で的一定の足場を作り、それらを手掛かりにしながら、それらを超えた提案も含む、現場の創意工夫による自由で大胆な取組を実現していくことを目指すものである。したがって、本検討及び資料は、学校現場の実践を特定の枠に当てはめるものではない点に特段の注意を払う必要がある。



検討項目①

合意形成・意思決定に関する概念の整理



議論の前提

【合意形成・意思決定に関する経緯】

- 平成20年改訂の学習指導要領では「集団決定」という言葉を用い、話し合い活動を「意見の異なる人と折り合いを付けたり、他者と議論して集団としての意見をまとめたりする活動」としていた。
- これに対して平成29・30年改訂の現行学習指導要領では、「合意形成」という言葉を用いた。具体的には、目標における思考力・判断力・表現力等として「合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようになる」ことを示しつつ、学習過程としても、学級活動・ホームルーム活動（以下、「学級活動」という）（1）で集団としての合意形成を、学級活動（2）、（3）で一人一人の意思決定を行うことを明示した。（※1）
- 加えて、解説で「合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力をもち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切」などと記載し、様々な機会を捉えて趣旨の普及に努めてきたものの、浸透は道半ばであり、我が国の教育の課題として過度の同調圧力を指摘する声がある。

（※1）学級活動（1）は「学級や学校における生活づくりへの参画」を指し、（2）は「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、（3）は「一人一人のキャリア形成と自己実現」を指す（いずれも現行の記載）。

【合意形成と意思決定に関する現行の整理】

- 「合意形成」について、学級活動（1）の学習過程の解説（小学校）では、以下のとおり記載されている。

「意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考え方をまとめたり決めたり」すること

- 上述の通り学校現場への浸透は道半ばである上、学術的な視点においても、「合意形成とは何か」について様々な見解があり、互いに共通項はあるものの、見解が統一されているわけではないとされている。（※2）
- また、意思決定については、現行指導要領上「一人一人の意思決定」として位置付け、「集団としての意思決定」については、「集団としての意見をまとめる」話し合い活動（合意形成）の一環として整理した上で、現行の特別活動の思考力・判断力・表現力等の解説（中学校）では、以下のとおり記載されている。

「現在及び将来に向けた自己実現のために、自己のよさや個性、置かれている環境を様々な角度から理解するとともに、進路や社会に関する情報を収集・整理し、将来を見通して人間としての生き方を選択・形成」すること

具体的論点（案）

1. 特別活動における合意形成と意思決定の概念の整理 【補足イメージ1】

- 論点整理で打ち出した「民主的で持続可能な社会の創り手育成」に向け、「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組」の充実に資する観点から、「合意形成」、「意思決定」について一定の共通理解を図る必要があるのではないか。
- 具体的には、今般の特別活動WGにおける議論を踏まえつつ、
 - ① 学校現場にとっての分かり易さ
 - ② 合意形成や意思決定に係る学術的な知見等に留意しつつ、合意形成及び意思決定に関わる概念を、以下のとおり整理してはどうか。
 - **合意形成**
 - ・ 多様な意見・価値観を認め合い、対立や葛藤と向き合いながら、納得解を創造していくこと
 - **意思決定**
 - ・ 多様な情報や他者との関わりを踏まえ、自己の価値観に照らし、責任をもって行動を選択していくこと

2. 合意形成と意思決定に関する諸要素の整理 【補足イメージ2】

- 現行指導要領では、「集団としての合意形成」「個人としての意思決定」を思考・判断・表現の学習過程として位置付けている。
- 特別活動においては、引き続き、意思決定を「個人の意思決定」を主として想定するもの（「集団の意思決定」については「集団としての合意形成」の一環と考える）として操作的に整理してはどうか。
- その上で、「合意形成」と「意思決定」に対応する要素について、おおむね以下のとおり整理できるのではないか。
 - **合意形成**：社会創造(主たる教育上の視点)、2人以上(行為主体の単位)、
学級活動(1)・児童会・生徒会活動(主として想定される活動) (※)
 - **意思決定**：自己実現（主たる教育上の視点）、個人（行為主体の単位）、
学級活動(2)(3)（主として想定される活動） (※)

(※) クラブ活動、学校行事については、合意形成と意思決定の両方の要素を有している。

特別活動における合意形成と意思決定に関する概念の整理について

- 論点整理で打ち出した「民主的で持続可能な社会の創り手育成」に向け、「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組」の充実に資する観点から、「合意形成」、「意思決定」について一定の共通理解を図る必要があるのではないか。
- 具体的には、今般の特別活動WGにおける議論を踏まえつつ、
 - 学校現場にとっての分かり易さ
 - 合意形成や意思決定に係る学術的な知見
 等に留意しつつ、合意形成及び意思決定に関する概念を、以下のとおり整理してはどうか。

合意形成

多様な意見・価値観^(※1) を認め合い^(※2)、対立や葛藤と向き合いながら^(※3)、納得解^(※4) を創造していくこと

意思決定

多様な情報や他者との関わり^(※5) を踏まえ、自己の価値観に照らし、責任をもって行動を選択^(※6) していくこと

(※1) ここでいう「価値観」(values/perspectives)は自己の在り方生き方と関わるものであるが、信念（belief）、アイデンティティといった比較的静的に捉えられ易いもののみならず、他者との関わりを通じて動的に広がったり変化したりする、好きや得意を含む身近な価値（value）や、身の回りの物事への認識やものの見方（perspective）を含む。

(※2) 安心して意見・価値観を表明できることや、賛否の判断を胸に置いてそれらが受容されることを含む。

(※3) 少数意見を含めた多様な意見を比較したり、批判的に検討したりすることを含む。また、向き合った結果、対立や葛藤に対処することから一度距離を置くという可能性も否定されないことに留意。

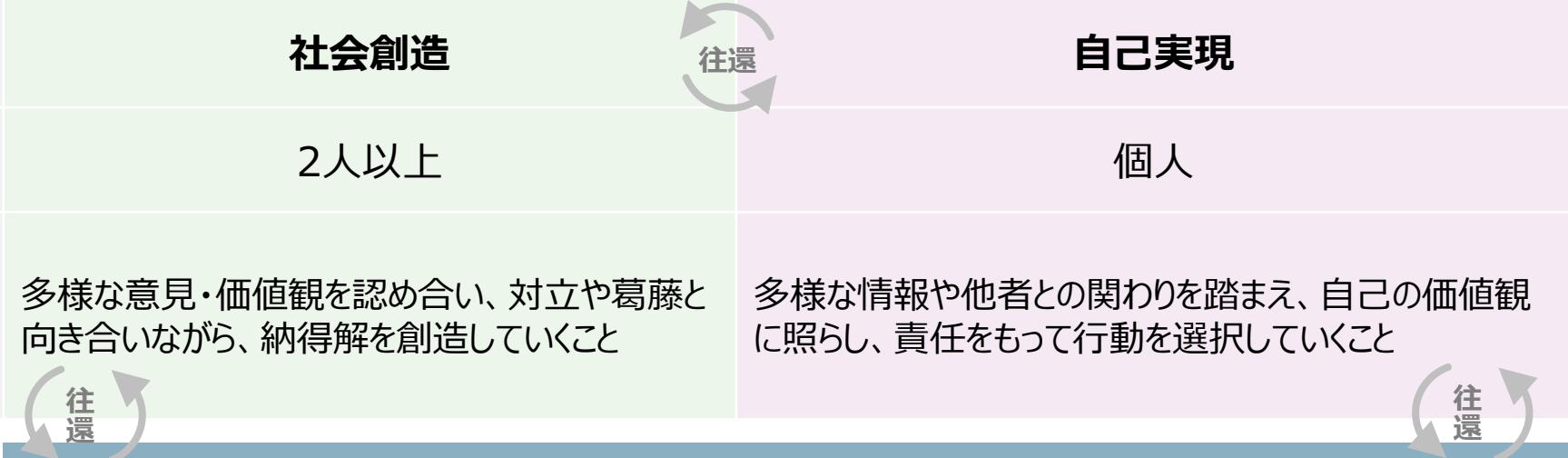
(※4) 「納得解」とは、すべての当事者が受け入れ可能な案を指す。一方、実際には限られた時間の中で納得解に至ることができず、暫定解として合意する場合やいったん判断を留保する場合も十分にあり得ること、結果としてうまくいかない経験も含め不斷に見直していくことが重要であることに留意。

(※5) 「関わり」には、他者や社会との相互関係において、選択肢を広げたり、自己理解を深めたり、自己の価値観を形成したりすることを含む。

(※6) 必ずしも十分な情報等がない、不確実な状況の中で選択し、実現に向け努力することを含む。

合意形成と意思決定に関する諸要素の整理について

- 現行学習指導要領では、「集団としての合意形成」「個人としての意思決定」を思考・判断・表現の学習過程として位置付けている。
- 特別活動においては、引き続き、**意思決定を「個人の意思決定」を主として想定するもの**（「集団の意思決定」については「集団としての合意形成」の一環と考える）として操作的に整理してはどうか。
- その上で、**「合意形成」と「意思決定」に対応する要素**について、おおむね以下のとおり整理できるのではないか。

	合意形成	意思決定
主として想定される活動 (※)	学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画、 児童会・生徒会活動 ※ クラブ活動、学校行事 については、合意形成と意思決定の両方の要素を有している	学級活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
主たる教育上の視点	社会創造	自己実現
行為主体の単位	2人以上	個人
概念整理	多様な意見・価値観を認め合い、対立や葛藤と向き合いながら、納得解を創造していくこと	多様な情報や他者との関わりを踏まえ、自己の価値観に照らし、責任をもって行動を選択していくこと
 人間関係形成（基盤）		

(※) いずれも現行の記載。合意形成の過程においても意見の表明をはじめ個人の意思決定の要素が含まれている。



検討項目②

**合意形成・意思決定のプロセス及び
児童会・生徒会活動に関する内容の見直し**

具体的論点（案）

1. 合意形成のプロセス 【補足イメージ1～3】

- 論点整理における「多様性の包摂」の柱を踏まえ、「当事者意識をもって自分の意見を形成し、対話と合意ができる」力を育み、「確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤」としての役割を特別活動が果たしていくにあたっては、今後一層高まることが想定される「教室の多様性」を前提としつつ、多様な他者との生活を自分たちの力でよりよいものにしていくための合意形成のプロセス等について、一定の共通理解を確保することが重要ではないか。
- このため、合意形成に関する概念整理や、実践の蓄積等を踏まえ、合意形成の典型的なプロセスを「①課題の設定、②発散（意見表明・受容）、③収束（吟味・創造）、④実践・振り返り」とした上で、合意形成は学級活動や児童会・生徒会活動にとどまらず、日常の学校生活の様々な場面で存在していることや、実践・振り返りを不断の見直しにつなげることが重要であること、合意形成に関わる重要な概念や知見等（※）を、必要に応じて活用できる参考資料として示してはどうか。
(※) 例えば、公平と公正の違いや、合意形成の手法等に関わる学術的な蓄積を念頭。
- また、上記の①～④のプロセスに含まれる諸要素について、「①課題の設定（課題の収集・発見、場の設計、意見形成の促進）、②発散（安全な場づくり、意見・背景の表明、多様な価値観の受容）、③収束（少数意見を含む吟味、安易な多数決の回避を含む納得解の創造、合意）、④実践・振り返り」として、併せて示してはどうか。

2. 意思決定のプロセス 【補足イメージ4】

- 論点整理における「自らの人生を舵取りする力」を踏まえ、学級や学校という身近な社会との関わりで自己の生活上の課題と向き合い、その解決に向けて主体的に取り組む意思決定のプロセスについて、一定の共通理解を確保することが重要ではないか。
- このため、意思決定に関する概念整理や実践の蓄積、合意形成のプロセス等を踏まえ、意思決定の典型的なプロセスを「①課題の設定、②発散（情報収集・相互参照）、③収束（自己理解・自己決定）、④実践・振り返り」とした上で、意思決定は現在から未来の様々な射程で存在していることや、実践・振り返りを不断の見直しにつなげることが重要であることを、必要に応じて活用できる参考資料として示してはどうか。
(学級活動(2)(3)については次回WGで詳しく検討)

具体的論点（案）

3. 合意形成と意思決定の関係 【補足イメージ5】

- 「合意形成のプロセス」「意思決定のプロセス」相互の関係については、合意形成に自己の価値観が持ち込まれ、その過程で意思決定に関わる自己理解や価値観が更新されるなど、往還関係にあると言えるのではないか。また、この往還がスムーズに回っていくことが、ひいては「自らの人生を舵取りする力」と「民主的で持続可能な社会の創り手」育成の両立にも資すると考えられるのではないか。

4. 研修の在り方

- 次期指導要領の実施にあたり学校現場が無理なく取り組むことができるよう、教職員支援機構と連携した研修の実施の在り方や、分かり易い教師向けの参考資料や動画等の示し方について、検討すべきではないか。

5. 児童会・生徒会活動に関する内容の見直し

- 論点整理において、児童会・生徒会活動について、教師の適切な指導のもと、「校則など学校のルールの設定をはじめとする学校運営に発達段階に応じて子供が関わる仕組みであることを、教育的活動という性質に十分配慮しつつ、明示的に示していくべき」とされていること、学校行事について、「子供たちが創造する活動」であることを明確化する方向が示されている。
- これらのこと踏まえつつ、現在児童会・生徒会の役割として規定されている「学校行事への協力」について、そもそも学校行事への参画は児童会・生徒会活動に留まらないことも勘案してその内容を見直し、学校運営に関わって教師等が児童・生徒の声を聴くという要素を追記してはどうか。（※）

（※）教師が適切に指導性を發揮することが前提。

合意形成のプロセスについて（イメージ）

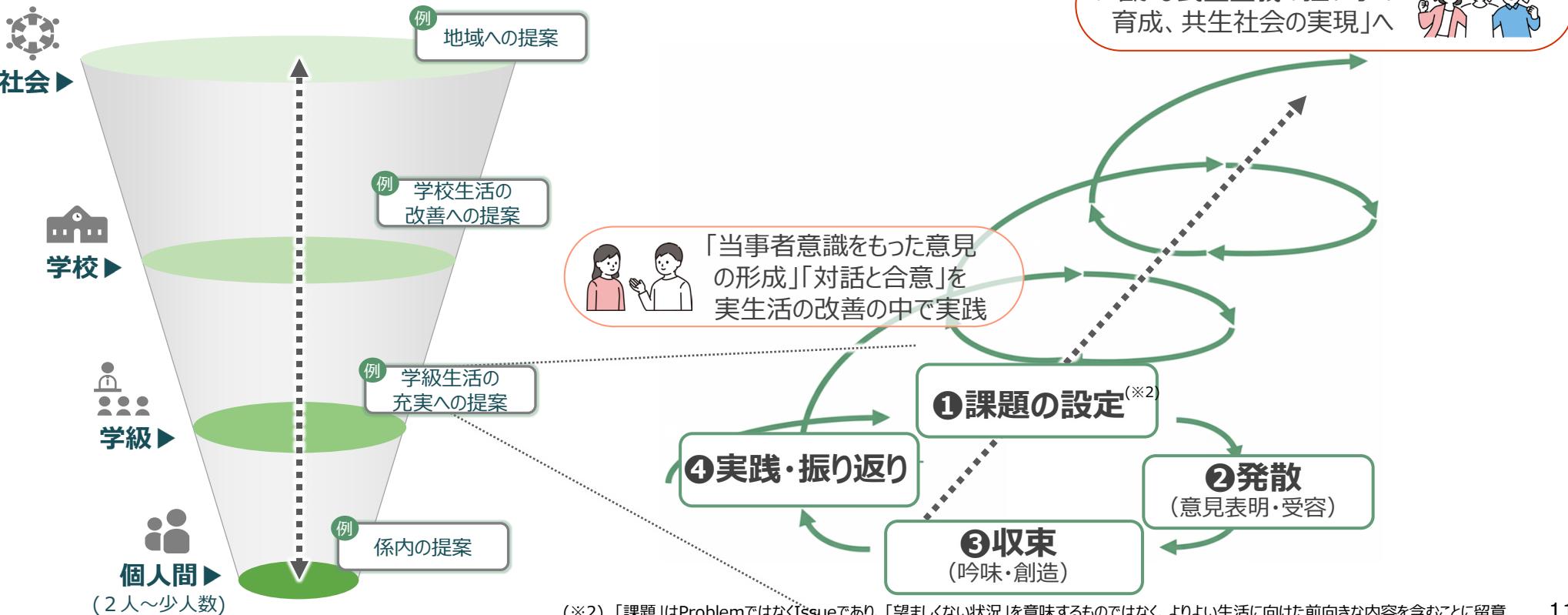
- 論点整理における「多様性の包摂」の柱を踏まえ、「当事者意識をもって自分の意見を形成し、対話と合意ができる」力を育み、「確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤」としての役割を特別活動が果たしていくにあたっては、今後一層高まることが想定される「教室の多様性」を前提としつつ、多様な他者との生活を自分たちの力でよりよいものにしていくための合意形成のプロセス等について、一定の共通理解を確保することが重要ではないか。
- このため、合意形成に関する概念整理や、実践の蓄積等を踏まえ、合意形成の典型的なプロセスを「①課題の設定、②発散（意見表明・受容）、③収束（吟味・創造）、④実践・振り返り」とした上で、合意形成は学級活動や児童会・生徒会活動にとどまらず、日常の学校生活の様々な場面で存在していることや、実践・振り返りを不断の見直しにつなげることが重要であること、合意形成に関わる重要な概念や知見等を、必要に応じて活用できる参考資料として示してはどうか。

（※）プロセスを辿ること自体が目的化することのないよう留意

1. 小さな範囲から大きな範囲まで、 合意形成は日常の学校生活の様々な場面で存在^(※1)

（※1）例えば校則と学級のきまりなど、異なる範囲の合意が相互に関連している場合があることに留意

2. 実践・振り返りを新たな課題の発見につなげ、よりよい生活 の創造に向け、一度合意したものも不断に見直すことが重要



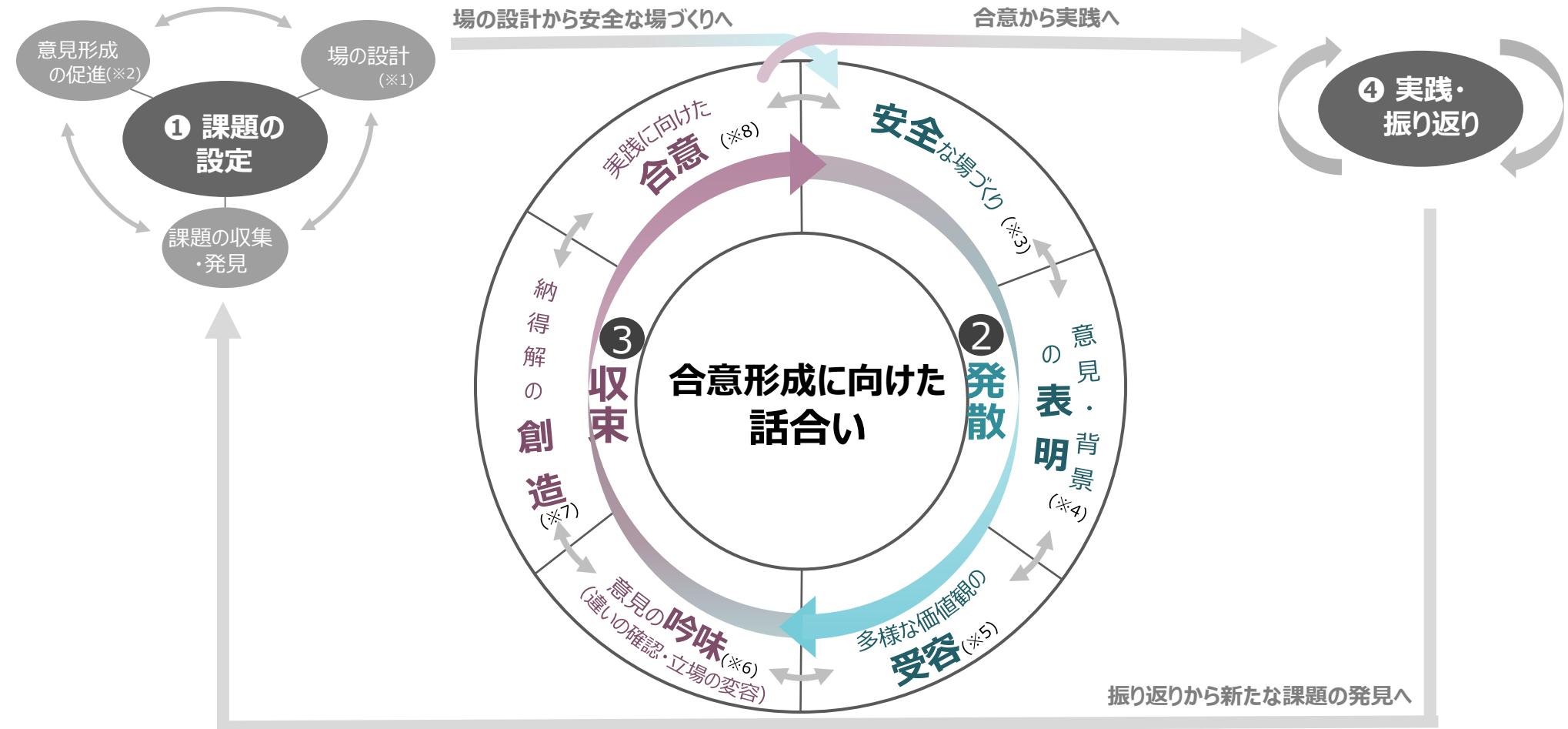
（※2）「課題」はProblemではなくIssueであり、「望ましくない状況」を意味するものではなく、よりよい生活に向けた前向きな内容を含むことに留意

合意形成のプロセスに含まれる諸要素について（イメージ）

補足イメージ2

合意形成のプロセスについて一定の共通理解を図ることの重要性を踏まえ、合意形成のプロセスに含まれる諸要素について、「①課題の設定（課題の収集・発見、場の設計、意見形成の促進）、②発散（安全な場づくり、意見・背景の表明、多様な価値観の受容）、③収束（少数意見を含む吟味、安易な多数決の回避を含む納得解の創造、合意）、④実践・振り返り」として、以下のとおり参考として示してはどうか。

※あくまでも参考として示すものであり、形式的な運用により形骸化を招くことがないよう留意



(※1) 議題を決める、話し合いの計画を立てる等

(※2) 話合いに向けてあらかじめ論点を提示する、話し合いの準備としてのアンケートをデジタルで行う等

(※3) グラウンドルールなどの話し合いの前提を共有する等

(※4) 「背景」には根拠となる価値観、感情、経験等を含む。「表現」に関し、例えばデジタルも活用し、合意形成過程で意見の違いや少数意見の可視化のためのアンケートを複数回繰り返すこと等も考えられる。

(※5) 「受容」とは、発散の一環として、多様な意見に耳を傾け、その背景にある経験・価値観や感情を含め理解しようとするものであり、賛否の判断を脇に置いておくものであることに留意

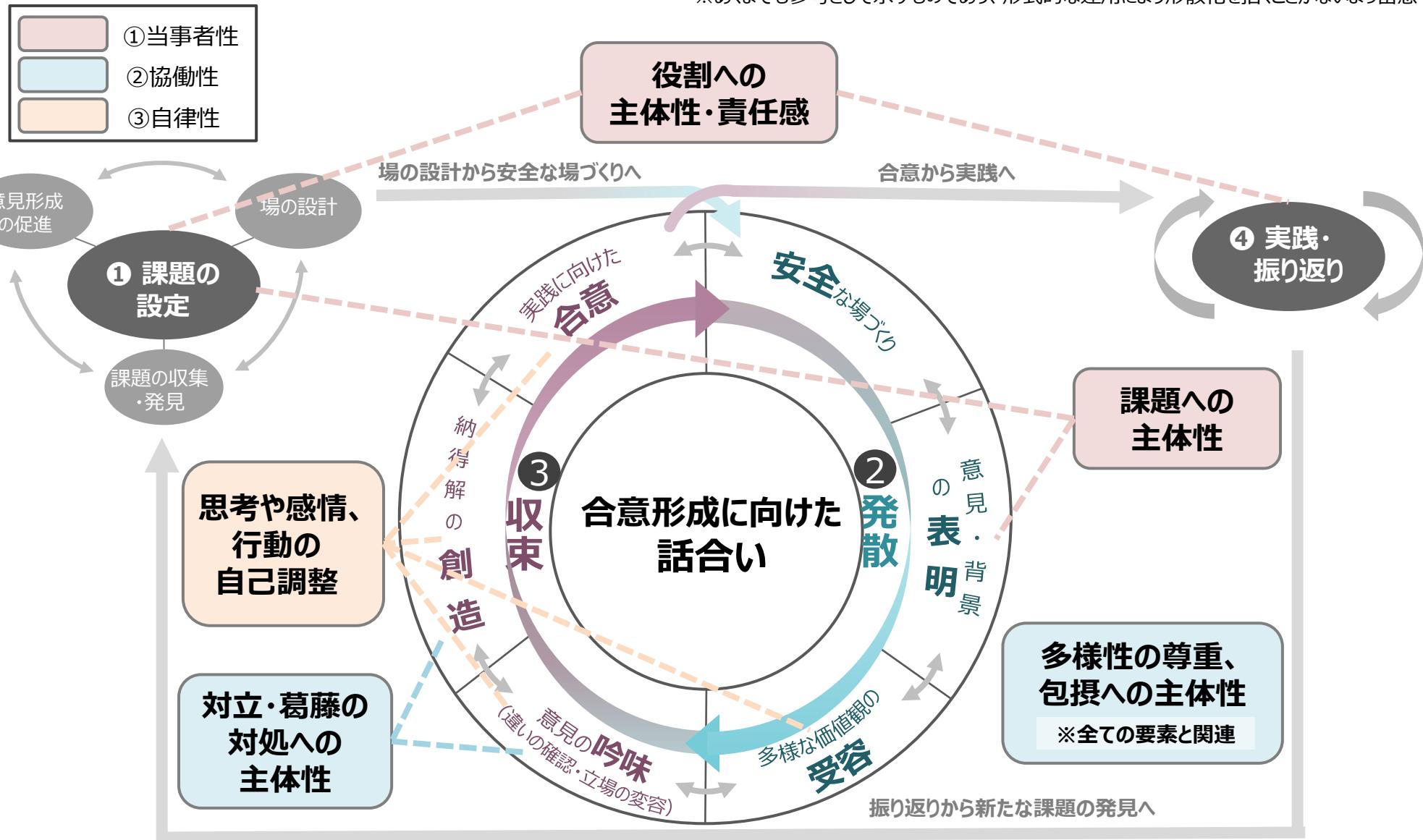
(※6) 少数意見を含む比較や批判的検討等

(※7) 多様なアイデアの生かし合い（練り上げ）を含む

(※8) 安易な多数決は望ましくない一方、限られた時間で「納得解」を得ることが困難な場合において「暫定解」に合意することもあり得る

合意形成に関する諸要素と「学びに向かう力、人間性等の要素」との関係 (イメージ)

※あくまでも参考として示すものであり、形式的な運用により形骸化を招くことがないよう留意



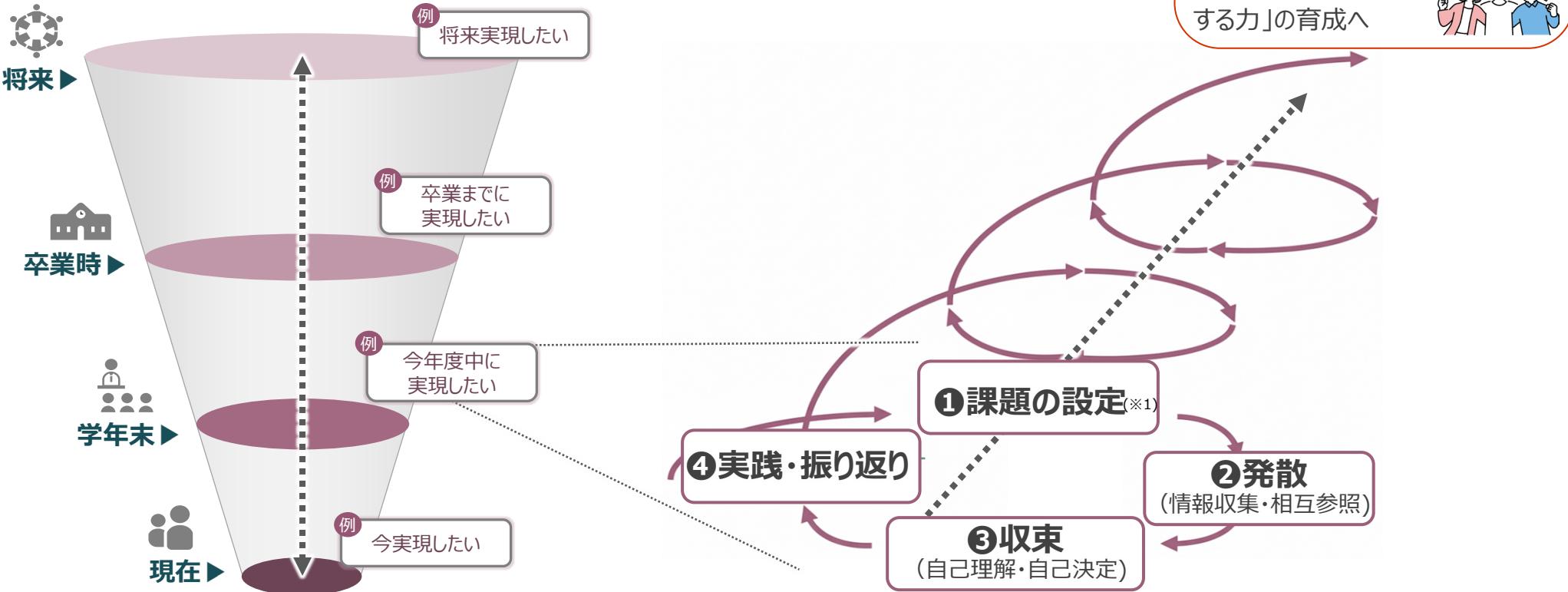
意思決定のプロセスについて（イメージ）

- 論点整理における「自らの人生を舵取りする力」を踏まえ、学級や学校という身近な社会との関わりで自己の生活上の課題と向き合い、その解決に向けて主体的に取り組む意思決定のプロセス等について、一定の共通理解を確保することが重要ではないか。
- このため、意思決定に関する概念整理や、実践の蓄積等を踏まえ、意思決定の典型的なプロセスを「①課題の設定、②発散（情報収集・相互参照）、③収束（自己理解・自己決定）、④実践・振り返り」とした上で、意思決定は現在から未来の様々な射程で存在していることや、実践・振り返りを不断の見直しにつなげることが重要であることを、必要に応じて活用できる参考資料として示してはどうか。

（※）プロセスを辿ること自体が目的化することのないよう留意

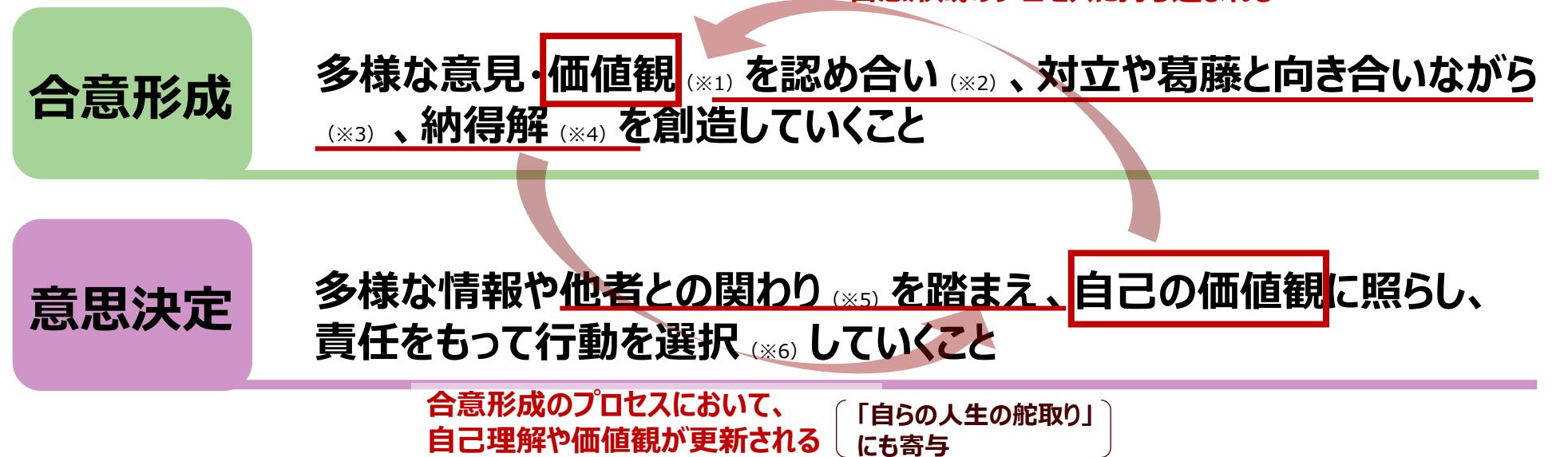
**1. 目の前のことから卒業後まで、
意思決定は現在から未来の様々な射程で存在**

**2. 実践・振り返りを新たな課題の発見につなげ、よりよい生活
の創造に向け、一度決定したものも不断に見直すことが重要**



特別活動における合意形成と意思決定の関係について

- 「合意形成のプロセス」「意思決定のプロセス」相互の関係については、合意形成に自己の価値観が持ち込まれ、その過程で意思決定に関わる自己理解や価値観が更新されるなど、往還関係にあると言えるのではないか。また、この往還がスムーズに回っていくことが、ひいては「自らの人生を舵取りする力」と「民主的で持続可能な社会の創り手」育成の両立にも資すると考えられるのではないか。



(※1) ここでいう「価値観」(values/perspectives) は自己の在り方生き方と関わるものであるが、信念 (belief)、アイデンティティといった比較的静的に捉えられ易いもののみならず、他者との関わりを通じて動的に広がったり変化したりする、好きや得意を含む身近な価値 (value) や、身の回りの物事への認識やものの見方 (perspective) を含む。

(※2) 安心して意見・価値観を表明できることや、賛否の判断を胸に置いてそれらが受容されることを含む。

(※3) 少数意見を含めた多様な意見を比較したり、批判的に検討したりすることを含む。また、向き合った結果、対立や葛藤に対処することから一度距離を置くという可能性も否定されないことに留意。

(※4) 「納得解」とは、すべての当事者が受け入れ可能な案を指す。一方、実際には限られた時間の中で納得解に至ることができず、暫定解として合意する場合やいったん判断を留保する場合も十分にあり得ること、結果としてうまくいかない経験も含め不斷に見直していくこと等が重要であることに留意。

(※5) 「関わり」には、他者や社会との相互関係において、選択肢を広げたり、自己理解を深めたり、自己の価値観を形成したりすることを含む。

(※6) 必ずしも十分な情報等がない、不確実な状況の中で選択し、実現に向け努力することを含む。

2. 高次の資質・能力について

検討項目④ 高次の資質・能力

・特別活動における「高次の資質・能力」をどのように考えるか



議論の前提

【総則・評価部会での議論】

- 総則・評価特別部会では、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）について、
「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの
- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るために、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があり、書きぶりを現時点一律に整理すべきものではないとした上で、
「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めることとしている。

【チェックポイントとして示された具体的な観点】 A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点

- B 資質・能力の深まりを示す観点
- C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点
- D 分かりやすさ等の観点

具体的論点（案）

- 特別活動における高次の資質・能力については、
 - ・ 他教科と異なり「知識・技能」「思考・判断・表現」ごとに内容を示していないこと
 - ・ 思考・判断・表現の過程で一体的に表出する学びに向かう力・人間性等がとりわけ重視されるとの特質があることを踏まえて検討する必要。
- より具体的には、
 - ・ 各活動の具体的な学習過程で、どのような「学びに向かう力・人間性等」を育むかを明確化することで、指導の改善・充実に繋げることが期待できること
 - ・ そのことが、「深い学び」を実現するイメージを持ち易くするという、高次の資質・能力の趣旨に合致すると考えられることを踏まえ、「思考力・判断力・表現力等」の学習過程と、その過程での表出が期待される学びに向かう力・人間性等について一体的に表現する方向で、チェックポイントを踏まえた記載ぶりを検討してはどうか。
- その際、高次の資質・能力の記述の粒度については、学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事という、活動等ごとを基本としつつ、例えば学級活動における合意形成や意思決定に関わる活動など、学習過程が特に異なると考えられる場合には、個別に位置付けることとしてはどうか。
- これらのことについ、現行学習指導要領上、活動ごとに設定されている目標については、高次の資質・能力と重複が生じることを踏まえ、高次の資質・能力に統合する形で整理することとしてはどうか。【補足イメージ1～5】

高次の資質・能力の示し方 (中学校・学級活動の現行の記載をベースとしたイメージ)

参照：令和7年12月15日
第3回 特別活動WG
資料 p. 27

[学級活動]

1 目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2 内容

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
- イ 男女相互の理解と協力
- ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
- エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
- ウ 主体的な進路の選択と将来設計



学級活動		
	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	
高次の資質・能力	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために合意形成を図り、役割を分担して協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級におけるよりよい生活づくりに目を向け、主体的に役割を担おうとする ○ 対立や葛藤に対処し、多様な個性や価値観を包摂しようとする ○ 他者の意見・価値観を省察し、自己の思考や行動を調整する 	
全ての学年において	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	
高次の資質・能力	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の興味・関心や課題に目を向け、主体的に行動しようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 他者の意見・価値観を省察し、自己の思考や行動を調整する 	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
全ての学年において	ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計

高次の資質・能力の示し方

(①中学校・学級活動の現行の記載をベースとしたイメージ)

[学級活動]

1 目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自動的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2 内容

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
- イ 男女相互の理解と協力
- ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
- エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校 図書館等の活用
- イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
- ウ 主体的な進路の選択と将来設計

(論点整理【抜粋】)

- 学級活動について、学級内の多様性を前提に、共生社会の実現に向けた納得解を形成することの重要性をより明確に位置付けてはどうか。このことが社会的障壁の低減や教育課程全体の包摂性の向上に資することが期待される

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画			
高次の 資質・ 能力	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全		(3) 一人一人のキャリア形成 と自己実現
	学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解（※）を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 		
高次の 資質・ 能力		学級での話合いを生かして自己の課題解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	

(※) 論点整理を踏まえ「納得解」を記載。また、合意形成にあたり、限られた時間で関係者の納得解まで形成することが難しい場合も多く、実際には暫定的な解として実践した上で、必要な見直しをしていくことが重要になる場合もあることを踏まえ、「暫定解」を追記

(※) 赤字・青字は、活動等ごとの現行の目標や内容の柱書の書きぶりと対応する部分

高次の資質・能力の示し方

①学級活動／ホームルーム活動（小・中・高の記載イメージ）

学級活動／ホームルーム活動			
高次の資質・能力	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画		
	小学校	中学校	高等学校
	<p>学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>ホームルームや学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全		
高次の資質・能力	小学校	中学校	高等学校
	<p>学級での話合いを生かして現在と将来の自己実現に向けて意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>学級での話合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>ホームルームでの話合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の形成者としての自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の在り方生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

高次の資質・能力の示し方 (②中学校・生徒会活動の現行の記載をベースとしたイメージ)

〔生徒会活動〕

1 目 標

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、

協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通じて、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2 内 容

1 の資質・能力を育成するため、学校の全生徒をもって組織する生徒会において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営

生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。

(2) 学校行事への協力

学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。

(3) ボランティア活動などの社会参画

地域や社会の課題を見いだし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。

〔論点整理【抜粋】〕

- 児童会・生徒会活動について、教師の適切な指導のもと、校則など学校のルールの設定をはじめとする学校運営に発達段階に応じて子供が関わる仕組みであることを、教育的活動という性質に十分配慮しつつ、明示的に示していくべき

生徒会活動	
高次の資質・能力	<p>異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。(※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
全ての学年において	<p>(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。</p> <p>(2) 学校行事への協力 学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。</p> <p>(3) ボランティア活動などの社会参画 地域や社会の課題を見いだし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。</p>

(※) 論点整理を踏まえ、「協力して学校運営に関わる」ことを記載。

また、「校則など学校のルール設定」については、「高次の資質・能力」であることを踏まえて記載していない。
なお、「教育的活動という性質への十分な留意」や「教師の適切な指導」等については、内容の取扱いや解説等で示す等の対応が必要になることに留意。

(※) **赤字**は、現行学習指導要領における活動等ごとの目標の書きぶりと対応する部分

高次の資質・能力の示し方

(③中学校・学校行事の現行の記載をベースとしたイメージ)

[学校行事]

1 目標

全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す

2 内容

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、全校又は学年を単位として、次の各行事において、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うことを通して、それぞれの学校行事の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) 儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。

(2) 文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりすること。

(3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資すること。

(4) 旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道德などについての体験を積むことができるようになること。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようになるとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようになること。

(論点整理【抜粋】)

- **学校行事**について、各行事の特質や教師の過度な負担を生じさせない観点を踏まえつつ、**子供たちが創造する活動**である旨をより明確にすべき

	学校行事
高次の資質・能力	<p>全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
全ての学年において	<p>(1) 儀式的行事 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。</p> <p>(2) 文化的行事 平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりすること。</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資すること。</p> <p>(4) 旅行・集団宿泊的行事 平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道德などについての体験を積むことができるようになること。</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕的行事 勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようになるとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようになること。</p>

(※) 論点整理を踏まえ、「創造」を記載。

(※) **赤字**は、現行学習指導要領における活動等ごとの目標や内容の柱書の書きぶりと対応する部分

高次の資質・能力の示し方

②生徒会活動、③学校行事（小・中・高の記載イメージ）

児童会／生徒会活動			
	小学校	中学校	高等学校
高次の資質・能力	<p>異年齢の児童で協力し、学校生活の充実と向上を図るために、計画を立て役割を分担し、協力して取り組むことを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るために諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るために諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

学校行事			
	小学校	中学校	高等学校
高次の資質・能力	<p>全校又は学年の児童で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する 	<p>全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

高次の資質・能力の示し方 (④小学校・クラブ活動の現行の記載をベースとしたイメージ)

〔クラブ活動〕

1 目 標

異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立て運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、個性の伸長を図りながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

2 内 容

1の資質・能力を育成するため、主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営

児童が活動計画を立て、役割を分担し、協力して運営に当たること。

(2) クラブを楽しむ活動

異なる学年の児童と協力し、創意工夫を生かしながら共通の興味・関心を追求すること。

(3) クラブの成果の発表

活動の成果について、クラブの成員の発意・発想を生かし、協力して全校の児童や地域の人々に発表すること。



クラブ活動	
高次の資質・能力	<p>異年齢の児童で協力し、共通の興味・関心を追求する活動を計画し、主体的に運営することを通じて、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共通の興味・関心をよりよく追求するため、主体的に役割を見だし担おうとともに、自他の個性の伸長を図ろうとする ○ 共通の興味・関心を追求する上での対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら協働して活動しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
全ての学年において	<p>(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営 児童が活動計画を立て、役割を分担し、協力して運営に当たること。</p> <p>(2) クラブを楽しむ活動 異なる学年の児童と協力し、創意工夫を生かしながら共通の興味・関心を追求すること。</p> <p>(3) クラブの成果の発表 活動の成果について、クラブの成員の発意・発想を生かし、協力して全校の児童や地域の人々に発表すること。</p>

(※) 赤字は、活動等ごとの現行の目標や内容の柱書の書きぶりと対応する部分

特別活動における高次の資質・能力の活用イメージ（高等学校 生徒会活動）



生徒の声を生かした生徒会活動にしたいけど、結局、前年踏襲の計画になりがち。 . .



生徒会活動はホームルーム活動や各種委員会活動が基礎となっていて、年度途中での計画変更は難しいから、どうしても硬直的な運用になってしまう。 . .



学習指導要領における生徒会活動が目指す高次の資質・能力の記述を確認してみよう

学習指導要領（イメージ）

目標

見方・考え方

高次の資質・能力

（生徒会活動）

異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るために諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他によりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不斷に見直そうとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容



生徒会活動において、予算編成や決算、活動計画や報告、役割分担も大切だけど、つい活動をこなすこと自体が目的化しがち。 . . 何のために行うのかを生徒が意識できるようにしたい。 . .



（生徒アンケートの結果）

- ・「生徒会選挙が形骸化しているのではないか」
- ・「毎年やっている避難訓練って、本当にこれで意味があるのだろうか」



高次の資質・能力を見てみると、「学校生活の充実と向上」「学校における自他によりよい生活づくり」という生徒会活動のねらいを確認できた。生徒の実態や育みたい力等を踏まえると、. . .

- ✓ 生徒アンケートを踏まえると、例えば「役員選挙の見直し」「避難訓練の見直し」といったことに重点を置くことも考えられるな
- ✓ 重点テーマを踏まえ、ホームルーム活動で話し合うための時数、全校生徒で話し合う下準備（役員の活動）に必要な時数、全校生徒での話し合い（生徒総会）に必要な時数等について考えてみよう



でも、ホームルームによって話し合いの質は違うし、決められた時数内で合意形成は難しい。 . . 結局安易な多数決になってしまふ。 . .



「○○の見直し」ができたかどうか、が目標ではないよな。 . . 特活の評価つて難しい。 . . ただでさえ忙しいのに、どう評価すればいいのか。 . .



活動の目標や学習過程を考える上でも、高次の資質・能力を見てみよう。

- ⇒ 予定調和や安易な多数決では「対立や葛藤を乗り越え」「多様な個性や価値観を包摂」しようとする力を身に付けるのは、難しいな
- ⇒ かといって時間は限られているけれど、「自他の意見、価値観を捉え直しながらその時点での「納得解、暫定解を形成」する、といったポイントが見えるくるな。デジタルも上手く使い、合意に至らなかつた経験も含めて今後の「不断の見直し」につなげることならできるかもしれない
- ⇒ 高次の資質・能力を見ると、どう生徒に声がけし、価値付け・意義付けをするのか、評価の方向性が見えてくるな。生徒の自己評価や相互評価についても、これを見ながら考えられそう

生徒会活動の計画・運用の具体イメージ①

※実事例を基にしたイメージ

- 避難訓練は毎年同内容で実施していたが、「避難訓練を見直そう」を生徒会活動の重点テーマとして設定。生徒会がホームルームで検討した意見を改善案としてまとめ、次年度に向けた行事計画の見直しを図ることとした。
- 行事の見直し自体が目的化しないためにも、高次の資質・能力を参考することで、声掛けや指導にあたって押さえるべきポイントを共通認識することができた。また、毎年度、見直しを継続することで、学校行事の精選だけでなく、充実にもつながった。

重点テーマ「避難訓練を見直そう」

(1年目)

時間	学習活動
1、2、3	【学校行事】地震・大津波を想定し、幼稚園児を伴い高台避難
4、5	【ホームルーム活動】今回の避難訓練の見直し、 <u>次年度の避難訓練に向けた検討、意見表明</u>
6、7	【生徒会】各ホームルームの意見を集約し、次年度に引き継ぎ



- ・避難訓練はずっと同じ内容で実施していて、形骸化も見られるな。見直しを生徒自身で考えることを次年度の重点にしよう。
- ・自分たちで課題を見出して「納得解」を検討し、実際に変化をつくることは、高次の資質・能力にある「主体的に役割や責任」を担おうとする姿にもつながるのでは



- ・遠い高台への、増水しうる川沿いを通る避難は園児には不向き
- ・高台避難ではなく垂直避難にした方がよいのでは

(2年目)

時間	学習活動
1	【生徒会】昨年度からの引き継ぎ確認
2 (0.5)	【学校行事】大地震・大津波を想定し、幼稚園児を伴い校舎の垂直避難
2 (0.5)	【ホームルーム活動】今回の避難訓練の見直し、 <u>次年度の避難訓練に向けて建設的な意見表明</u>
	【生徒会】各ホームルームの意見を集約し、次年度に引き継ぎ



生徒会で改善案をまとめ、
次年度の避難訓練を
高台避難から垂直避難に見直し
(5コマ→1コマへ)



1年目：3km離れた高台に避難



2年目：3階以上への垂直避難に見直し

(3年目)

時間	学習活動
1	【生徒会】昨年度からの引き継ぎ確認
2 (0.5)	【学校行事】大地震・大津波を想定し、幼稚園児を伴い垂直避難
3 (1.5)	【学校行事】幼稚園児と一緒に防災学習
	【ホームルーム活動】今回の避難訓練の見直し、次年度の避難訓練に向けて建設的な意見表明
4	【生徒会】各ホームルームの意見を集約し、次年度に引き継ぎ



生徒会で改善案をまとめ、
園児との防災学習
(学校行事)を新設
(1コマ→3コマへ)



3年目：園児との防災学習（学校行事）を新設

行事の見直し自体が目的化しないためにも、高次の資質・能力を参考することで、声掛けや指導にあたって押さえるべきポイントを共通認識することができた。
また、毎年度、不斷に見直しを継続することで、学校行事の精選のみならず、充実にもつながった。

生徒会活動の計画・運用の具体イメージ②

※実事例を基にしたイメージ

- 生徒会活動は前例踏襲や、活動の意図が曖昧になりがちな中、**生徒の課題意識や高次の資質・能力を踏まえ**、次年度の生徒会活動の**重点テーマを「生徒会活動と役員選挙の見直しを図ろう」として設定**、必要なコマ数を6コマとして当初計画を立案。
- しかしながら、実際に活動する過程で、検討に行き詰まりが発生。**改めて議論したい、との生徒の声を受け、高次の資質・能力にある「葛藤を乗り越え」「納得解を形成しようとする」力を育む上で必要と判断し、ホームルーム活動を1コマ追加して実施。**
- **活動の振り返り**にあたっても**高次の資質・能力を参照**。

重点テーマ「生徒会活動と役員選挙の見直しを図ろう」

(当初計画)

時間	学習活動
事前活動	<p>【生徒会執行部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会活動の形骸化、生徒会執行部のなり手不足について協議 全校アンケートの実施 <p>【中央委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ホームルームでの話し合いの提案 
1	<p>【ホームルーム活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会活動（役員選挙）の形骸化、なり手不足についての話し合い
2	<p>【生徒会執行部】【中央委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会活動や生徒会役員選挙の見直しについて協議、提案
3	<p>【選挙管理委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 執行部の人数と役割分担、役員選挙の方法は適切か協議 <p>【中央委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ホームルームでの話し合いの提案 
4	<p>【ホームルーム活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 執行部の人数と役割分担、役員選挙の方法は適切か協議
5	<p>【生徒会執行部】【選挙管理委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県選挙管理委員会への聞き取り 
6	<p>【生徒総会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会活動改革、生徒会役員選挙の見直しについて提案、協議
事後活動	<p>【生徒会役員選挙】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新たなルールを適用して実施 ● 振り返り（実施してみて分かったことの確認、次年度への反省等） 

(活動結果)

- 部活や勉強で時間がない
- 役員選挙に興味が持てない
- 役員になってもどうせ学校は変わらない

- 端末を活用して集合会議を削減、事務作業を改善しては
- 生徒会の声が学校を変える実感が必要

- 生徒会執行部と各種委員長の重複立候補を可能にしては
- 生徒会活動改革なら端末活用して電子投票をしては
- せっかく投票しても生かされない（死票になる）を変えては
- 生徒会も働き方改革が必要では

(県選管への聞き取りの結果、実社会ではここまで議論してきたことが実現困難であることが判明)

- 改めて議論したい

生徒の声を受け、高次の資質・能力にある「対立や葛藤を乗り越え」「納得解を形成しようとする」力を育むためにも、柔軟な教育課程の運用として、ホームルーム活動を1コマ追加し、話し合いの機会を確保しよう

- | | |
|-----|--|
| + 1 | <p>【ホームルーム活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重複立候補、死票の見直しは公平性を欠くか ● 端末活用で事故や投票情報の漏洩は起こるのか |
|-----|--|

生徒の主体性を活かした生徒会活動の計画・運用にあたって、高次の資質・能力が年度途中の判断の参考になった。また、生徒同士で振り返る際にも有用だった。



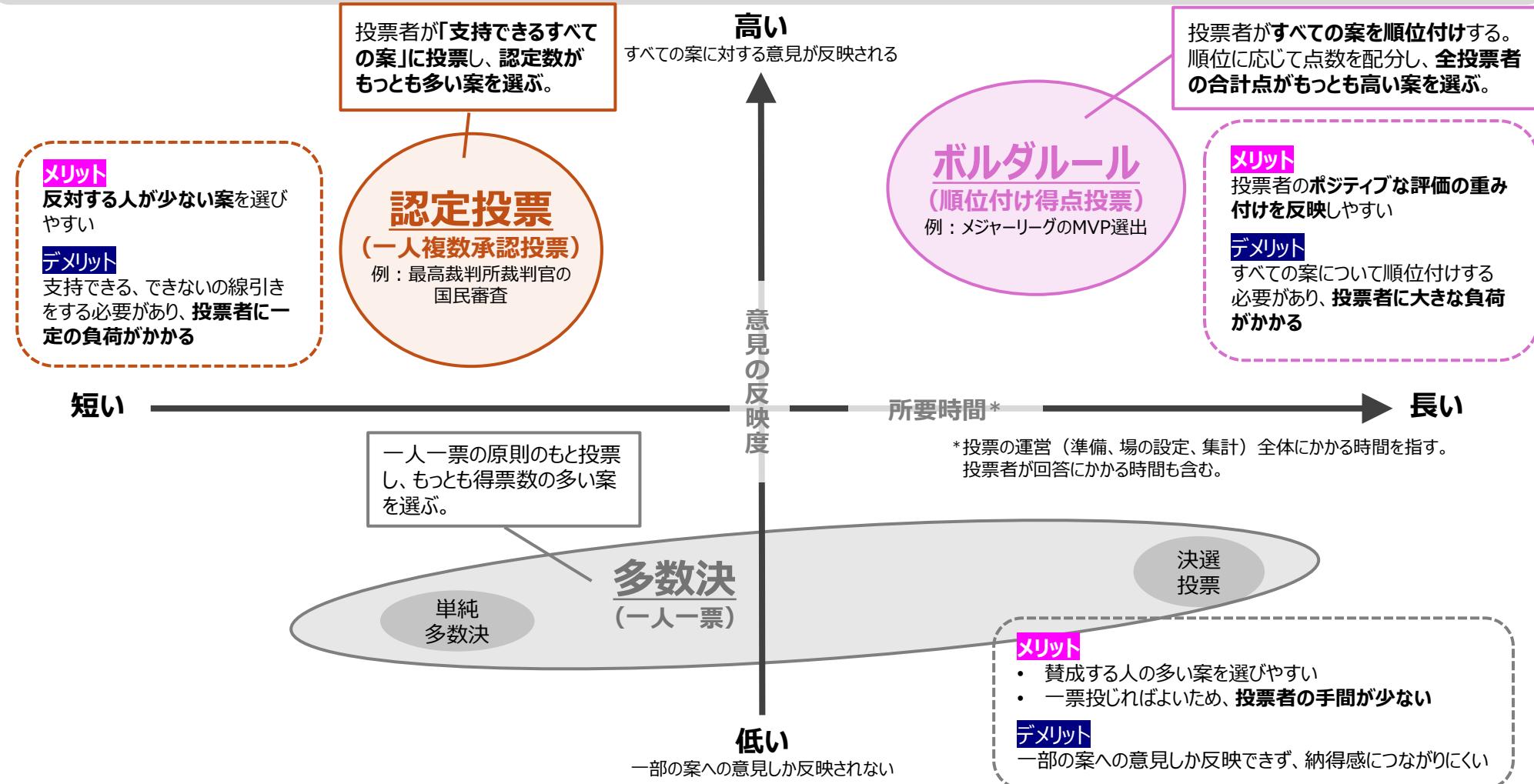
參考資料

多様な投票の方法（イメージ）

[最終決定ではない、案への意見の可視化・吟味を含む]

- 確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現に向け、安易な多数決を回避し、少数意見を吟味して納得解・暫定解を形成する重要性を学ぶにあたって、単純多数決以外の意見の可視化・吟味の方法としては、例えば以下のようなものが知られている。
- 従来こうした方法は実現困難であったが、GIGAスクール構想の下で活用可能なクラウドツールにより大人数の意見の集約・集計・可視化が容易になり、丁寧な合意形成を実現しうるインフラが整ったものと考えられる。

※あくまで例示であり、目の前の子供たちの発達や合意形成の難易度等、状況に応じて意見の可視化・吟味方法を選び取っていく必要があることに留意。
※本図では典型的な方法を示しており、より厳密な意見の反映を可能とする仕組みの導入等、様々な発展形があることに留意。



多様な投票の方法（詳細）

[最終決定ではない、案への意見の可視化・吟味を含む]

高い

すべての案に対する意見が
反映される



意見の反映度

低い

一部の案への意見しか
反映されない

投票方法	具体的な内容
ボルダールル	投票者からもっとも評価されている案を選ぶ …投票者がすべての案を順位付けする。順位に応じて点数を配分し、全投票者の合計点がもっとも高い案を選ぶ。
認定投票	投票者にもっとも許容される案を選ぶ …投票者が「支持できるすべての案」に投票し、認定数がもっとも多い案を選ぶ。
逐次最下位削除	得票が少ない案から削除していくながら選ぶ …投票者がすべての案に順位付けを行い、一位票のみを集計。最下位の案を順次除外しながら再集計を行っていき、最終的に過半数を獲得した案を選ぶ。
コンドルセルル	一対一の比較で負けない案を選ぶ …投票者がすべての案を順位付けする。すべての案について一対一の多数決比較を行い、他のすべての案に勝つ案を選ぶ。
決選投票	上位2位の案から選ぶ …一人一票の原則のもと投票し、過半数の人が選択した案を選ぶ。 最初の投票で過半数票を得る案がなかった場合、上位 2 位の案で決選投票し、過半数を獲得した案を選ぶ。
単純多数決	もっと多くの投票者から支持を得た案を選ぶ …一人一票の原則のもと投票し、得票数のもっとも多い案を選ぶ。

話し合いについて①

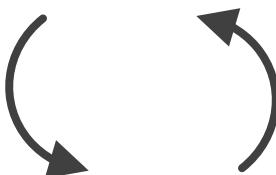
- 中原（2022）は、話し合いについて、あらかじめ答えがない「不確実な世界」において、様々な価値観を含む「多様性の壁」を乗り越え、「民主主義」を守っていくために必要な基礎スキルであるとした上で、よい話し合いを「①対話 + ②決断」の2つのフェイズから構成されるものとし、参加者がフェイズを認識しながら話し合いを進めることが重要であるとしている。

【話し合い】の2つのフェイズ】

①対話する

人々が自分の考えを表明し、お互いの考え方のズレを認識し、認め合う

対話：結論を直ちに出すのではなく、相互の「違い」の理解を深めるコミュニケーション



②決断する

議論して決める

議論：「私たち（We）」にとって最善の選択は何かを皆で探り合うこと

「私（I）は
～と感じる」
を表出し合う

「私たち
(We) は
～したい」を
決める

【対話の要素】

- ① ケリがついていないテーマのもとでの話し合い
- ② 人が向き合って、フラットに、言葉を交わす
- ③ 自分（自己の価値観、経験）を持ち寄る
- ④ 今ここに「全集中」し（当事者性）、意見を受け取り、ズレを確かめ合う
- ⑤ 自分の捉われに気付き、他者を理解できる
- ⑥ 共通理解をつくりあげられる

【決断のルール】

- ① メリット・デメリットを明らかにする
- ② 多数決に安易に逃げない
- ③ 「誰が決めるか」を決める
- ④ 「いつ決めるか」を決める
- ⑤ 「どのように決めるか」を決める
 - (a.全員の合意、b.多数決、c.多段階での多数決、d.スコア、e.評価)

※ 対話することなく「直ちに多数決」とすることを、腹落ち感や納得感が得られず決まったことが動かないなど、「最も話し合いから遠ざかった状況」としている

話し合いについて②

- 熊平（2023）は、対話を、一人では変えられないことに対して異なる専門性や強みを持つ者同士が協働し、「ありたい未来を自分たちの手で創り出す行為」に欠かせない手段としている。
- 価値を生み出す「対話の5つの基礎力」として、①メタ認知、②評価判断の保留、③傾聴、④学習と変容、⑤リアルタイム・リフレクションを挙げるとともに、経験からより多くを学ぶための「リフレクションのレベル」として、リフレクションの対象（レベル）を①出来事・結果、②他者・環境、③自分の行動、④自分の内面とし、レベルが高いほど、より大きな変化を生む（学びにつながる）としている。

対話の特徴

- 自分の主張を変える/自分の主張は変わることを前提とする
- 参加するメンバーは傾聴と相互学習を重んじる

【対話の5つの基礎力】

自分の内面に起きていることをリアルタイムにリフレクション（内省・振り返り）することで、対話からより多くを学ぶ

⑤リアルタイム・リフレクション

対話を通して何を学んだのか、自分の考えにどのような変化が起きたのかを明らかにする

④学習と変容

他者の意見の背景にある感情や価値観を理解する
(賛成する必要はない)

③傾聴

自分の意見を横に置き、他者の意見に耳を傾ける

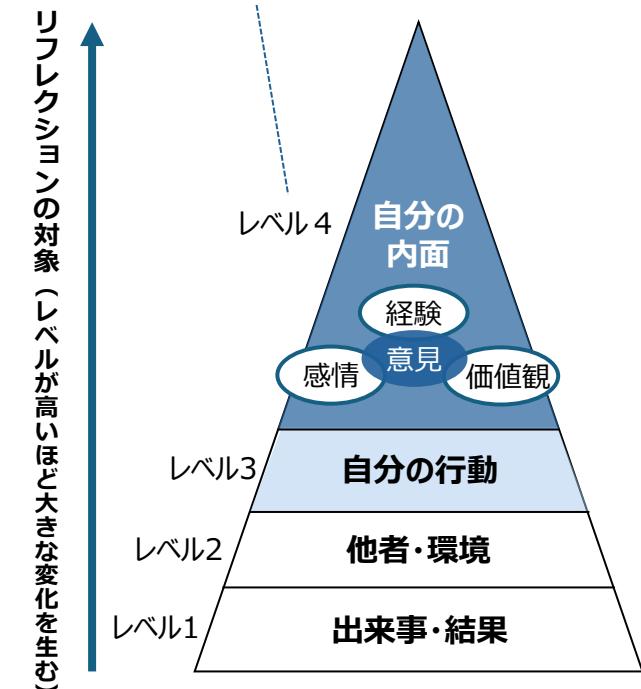
②価値判断の保留

自分の意見の背景を理解し、自己の内面をメタ認知する

①メタ認知

【経験から学ぶ「リフレクションのレベル」】

自分の意見がどのような経験、感情、価値観に基づくものなのかを知ることで、自分の内面をメタ認知することができる



心理的安全性について

- 心理的安全性について、生徒指導提要は、「『無知、心配性、迷惑と思われるかもしれない発言をしても、この組織なら大丈夫だ』と思える、発言することへの安心感を持てる状態」としている。
- また、Edmondson (2021) は、心理的安全性についての調査尺度や阻害要因・促進要因の例を示すとともに、例えば「自分の意見は職場で価値を持っている」の調査項目に対し、「非常にそう思う」と答えた従業員が10人中3人から6人に増えることで、組織は離職率を27%、安全に関する事故を40%減らし、生産性を12%高められるとの調査結果を示している。

【心理的安全性の定義】

- 「『無知、心配性、迷惑と思われるかもしれない発言をしても、この組織なら大丈夫だ』と思える、発言することへの安心感を持てる状態」(生徒指導提要)
- 「みんなが気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる文化」(Edmondson, 2021)

【心理的安全性を阻害する対人関係リスクの例】

発言することによって、

- 無能だと思われる不安
- 無知だと思われる不安
- 迷惑だと思われる不安



【心理的安全性の土台づくりの例】

※「心理的安全性を確立するためのリーダーのツールキット」の一部

- 失敗、不確実性、相互依存を当たり前とし、率直な発言の必要性を明確にする
- 意見を募る仕組みやディスカッションのガイドラインを設ける
- 傾聴し、受け容れ、感謝する

【心理的安全性の調査尺度】

①このチームでミスをしたら、決まって咎められる(R)、②このチームでは、メンバーが困難や難題を提起することができる、③このチームの人々は、他と違っていることを認めない(R)、④このチームでは、安心してリスクを取ることができる、⑤このチームのメンバーには支援を求めてくる(R)、⑥このチームには、私の努力を踏みにじるような行動を故意にする人は誰もいない、⑦このチームのメンバーと一緒に仕事をするときには、私たちはのスキルと能力が高く評価され、活用されている ※(R)はリバース項目を意味し、肯定的に答えるほど、心理的安全性が低いことを表している

自らの人生を舵取りする力と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成（今後の検討イメージ）

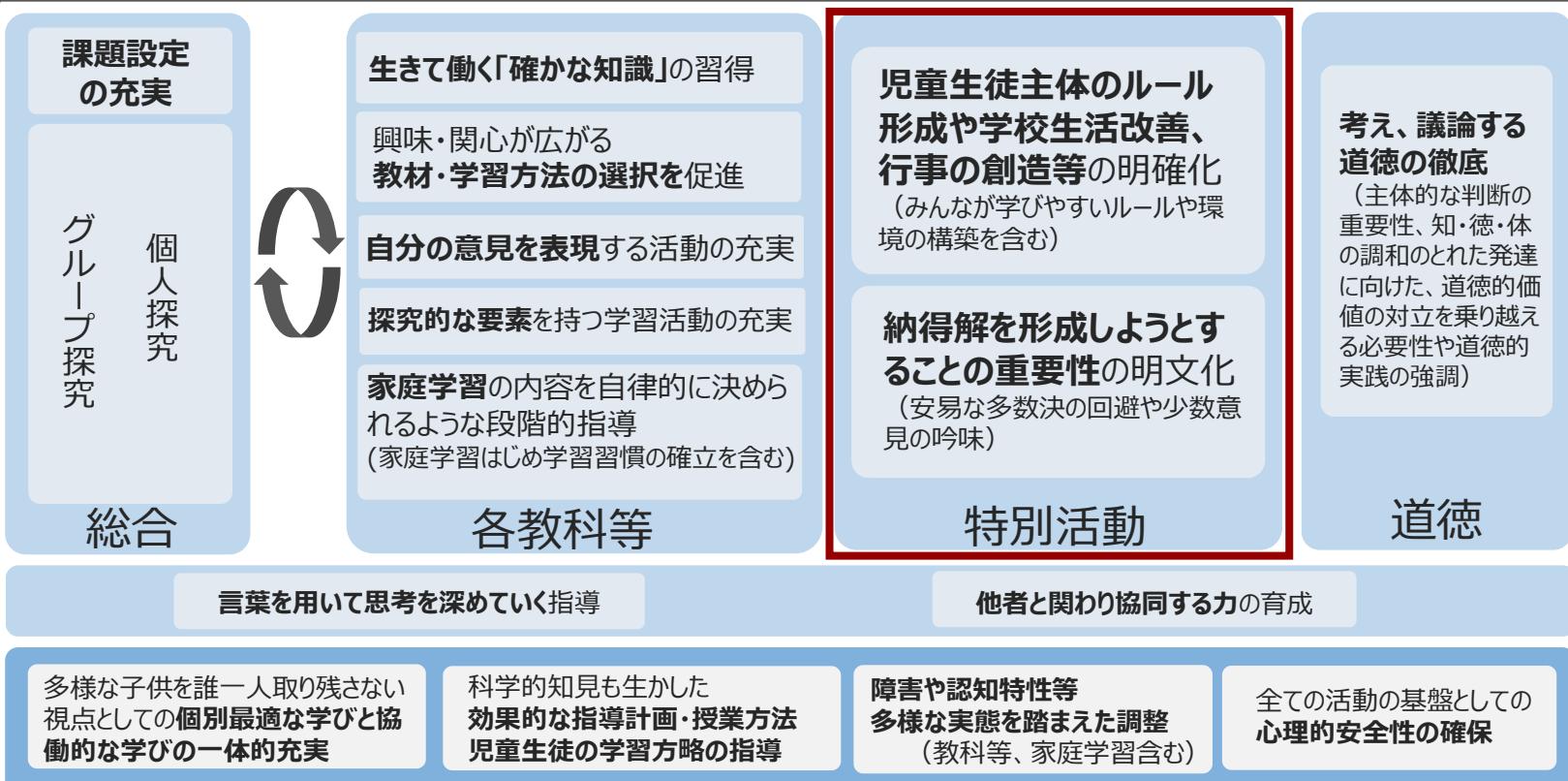
「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼



学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

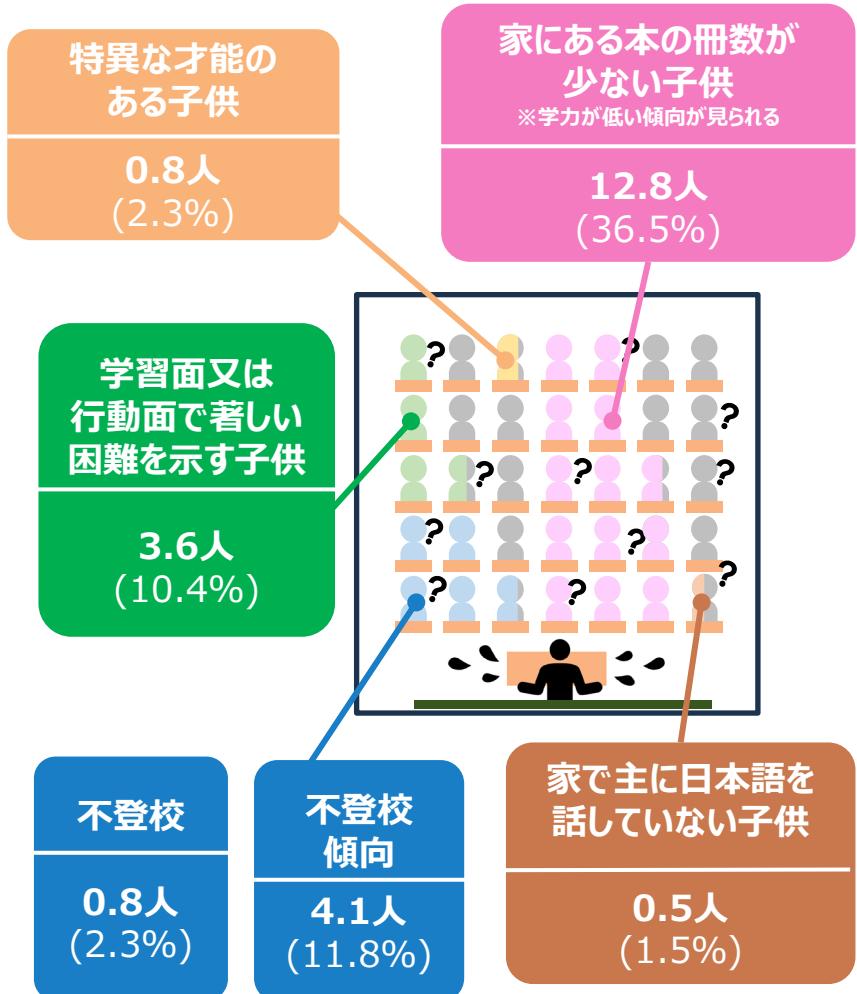
デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

児童生徒の多様性を包摂する必要性（小・中）

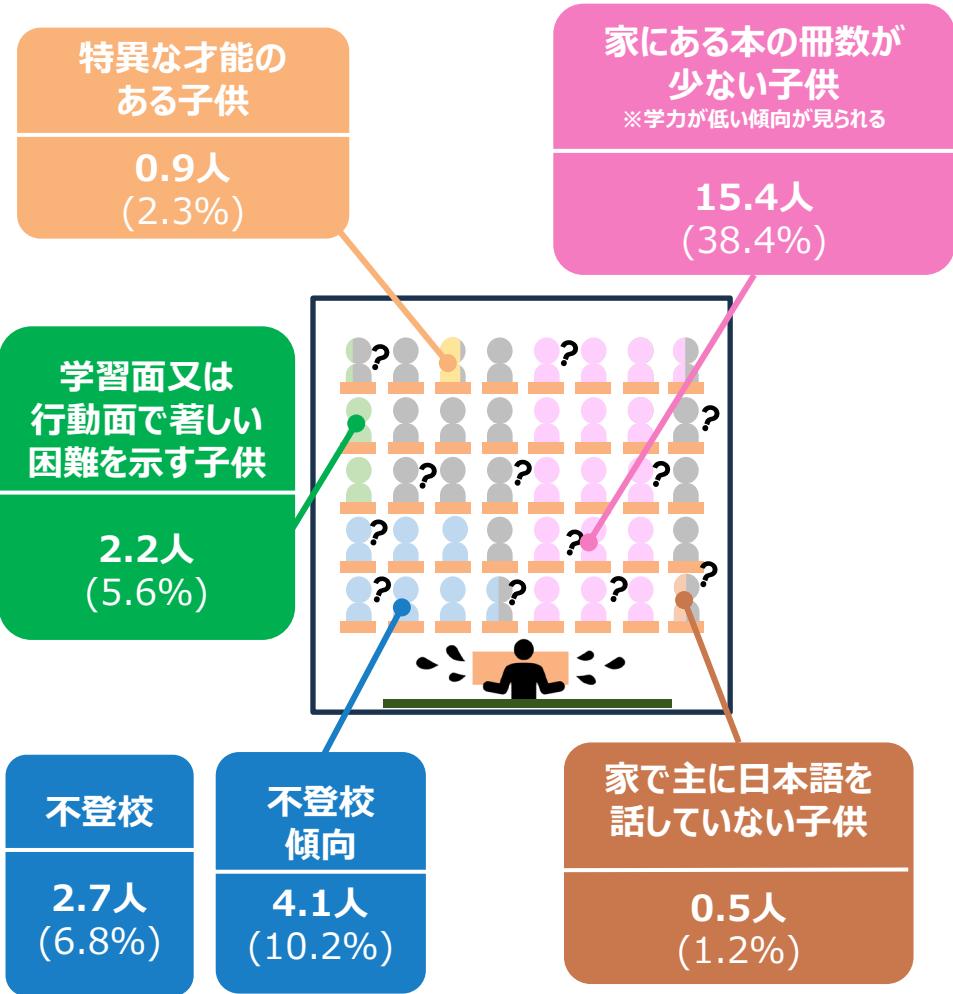
令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 p. 27

- どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

小学校（35人学級）



中学校（40人学級）



* 諸説参考資料P46-47より一部データを更新して作成 (https://www.mext.go.jp/content/20241227-mxt_kyoiku01-000039494_3.pdf)

※特異な才能がある子供: IQ130以上を仮定しているが、多様な基準や考え方がある。要因が複合している場合もある。

多様な種類・程度の特性がある子供があり、その対象範囲は想定よりも広いとも考えられる。そのため

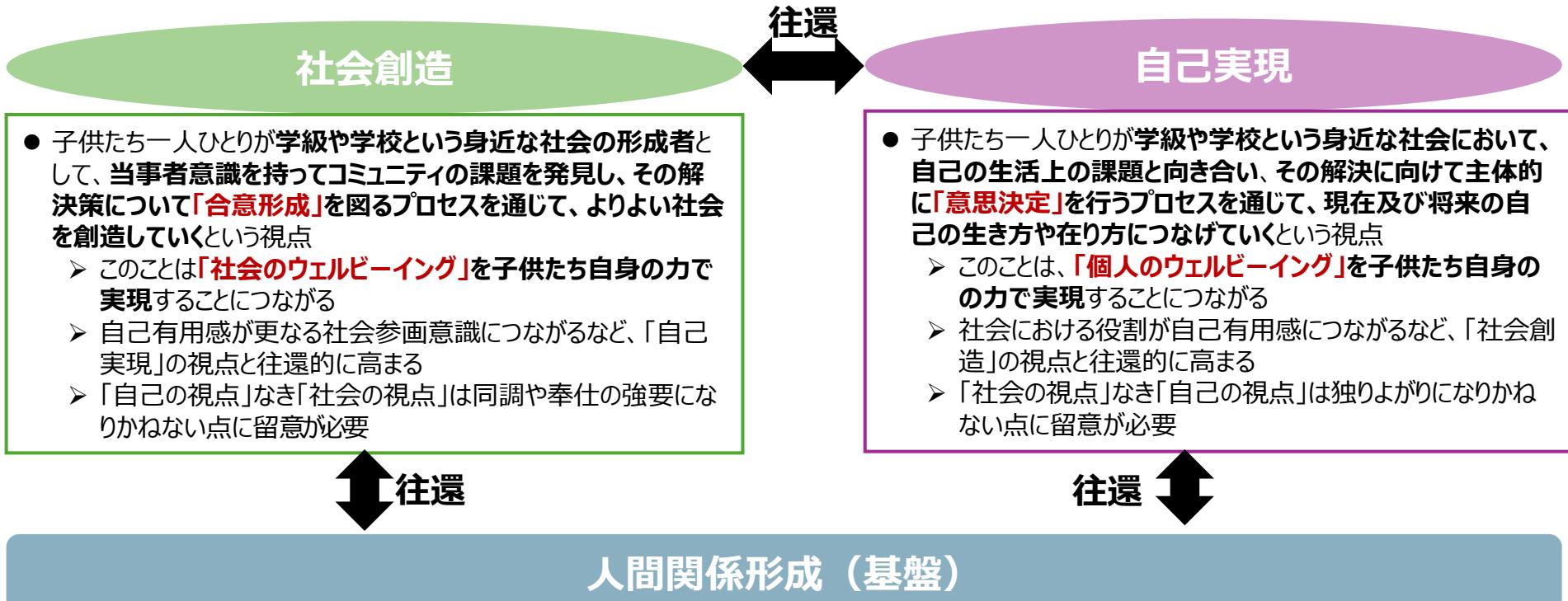
発達の段階に応じた学びに向かう力・人間性等の質の要素（たたき台イメージ）

確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現に向け、合意形成や意思決定の過程で表出する、学びに向かう力・人間性等についての考え方を整理することが重要。学びに向かう力・人間性等の新たな整理も踏まえ、特別活動の特質や発達の段階を踏まえた学びに向かう力・人間性等の要素について、以下のとおり整理してはどうか。

		小学校	中学校	高校
学びに向かう力・人間性等の要素	①当事者性	役割への主体性・責任感	よりよいコミュニティ（身近な社会である学級・学校）の形成に向け、役割を主体的に担い、責任を全うしようとする 好き（興味・関心）や得意から、社会との調整へ (狭い責任範囲から、より広い責任範囲へ)	
	②協働性	課題への主体性	自己の生活や自己の属するコミュニティ（身近な社会である学級・学校）の課題に目を向け、よりよくするために主体的に関わろうとする	
	③自律性	対立・葛藤の対処への主体性	よりよい社会の形成に向け、多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとする 単純な葛藤から、より多面的・多角的な視点を含む複雑な葛藤へ	
	④在り方生き方	多様性の尊重、包摂への主体性	個性や特性、背景、価値観、少数意見を尊重し、多様性を価値に変えようとする 合意形成の過程や結果において不公正や見落とされた存在がいか見渡そうとする	
	⑤自己実現	省察による思考や感情、行動の自己調整	自己の行動や他者の意見・価値観等を省察し、よりよい合意形成や意思決定を目指し自己の思考や感情、行動を調整する	
	⑥社会創造	主体的な社会創造、自己実現	実生活上の実践を通じて自己の在り方生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする 自己の生き方についての考え方から、自己の在り方生き方についての自覚へ	

「三つの視点」の再整理

- 前回改訂時から見方・考え方のベースとなっている三つの視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）について、概念上必ずしも並列とは言えないとの指摘があった。
- 以下のような考え方に基づき、「人間関係形成」、「社会創造」、「自己実現」の三つに改め、並列ではなくそれが往還的に高まっていく関係として、以下のとおり再整理してはどうか。

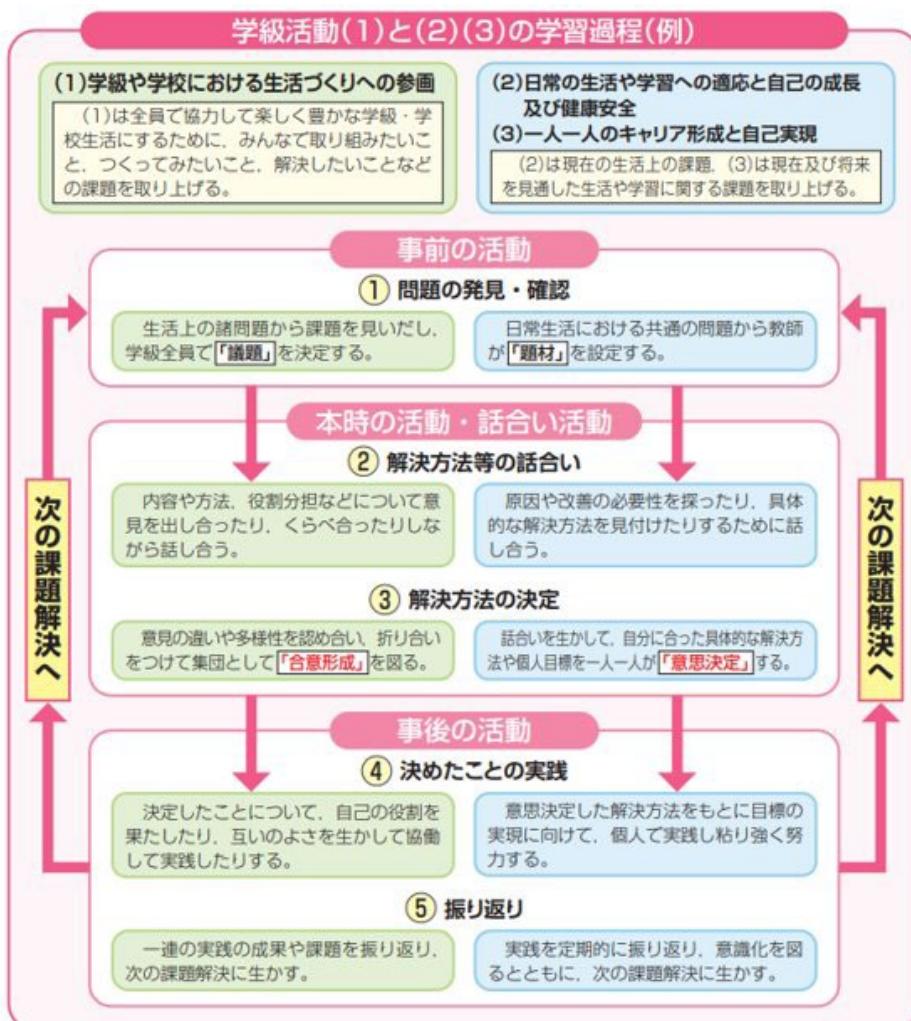


- 学校という身近な社会において、主体的によりよい人間関係を形成していくという視点
 - 安心して意見を表明したり、失敗したりできる「**心理的安全性の確保**」や、特定の個人・集団に過度に依存しない複層的な人間関係が、コミュニティの合意形成や個人の意思決定のみならず、各教科等における協働的な学びの**基盤**としての役割を果たす
 - 「社会創造」「自己実現」の視点を有する様々な活動を通じて、人間関係も往還的に高まる
 - ここでいう「人間関係形成」とは同調的な人間関係ではなく、子供たちの多様な個性や特性、背景の包摂を前提として、互いのよさや可能性を発揮し、**多様性を個人及び社会の力に変えていく視点**を含むものであることに留意が必要

現行指導要領における合意形成と意思決定のプロセスについて

- 現行指導要領においては、「合意形成」と「意思決定」について、共通のプロセス（①問題の発見・確認、②解決方法等の話し合い、③解決方法の決定、④決めたことの実践、⑤振り返り）として整理している。

○小学校における合意形成・意思決定のプロセス



○高等学校における合意形成・意思決定のプロセス



子供による主体的な学校生活の充実事例

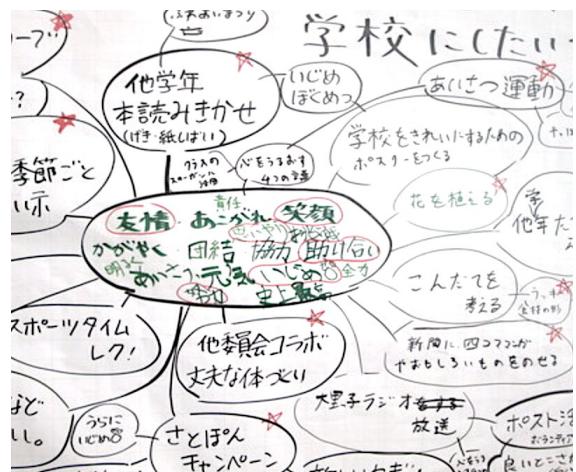
兒童會

埼玉県さいたま市立浦和大里小学校

「学校美化」と「自由時間拡大」の両立

- ・代表委員会では、学校生活をよりよくするために話し合い、特に学校運営に関わる内容については、校長や担当教師と相談しながら取組を進めている。
 - ・例えば、「もっと友達とたくさん遊んだり、自分の好きなことに取り組んだりする時間がほしい」という思いから、「昼の清掃をなくし、昼休みを長くしてほしい」と校長へ相談。しかし、清掃が行われなくなった場合の課題も考えられるため、代表委員会は美化委員会と協力し、解決策を検討。代表委員と美化委員が中心となり、清掃の大切さ等を全校児童に伝え、環境美化に取り組んだ。
 - ・結果、全校児童の環境美化に対する意識が高まり、取組も改善。そこで、再度校長と代表委員会が話し合い、週1回のロング昼休みを設けることを決定。現在、その時間を活用して学級での集会活動や読書、係活動などに取り組んでいる。

代表委員が話し合いながら、取り組みたいことを図に表わす



日頃から清掃を丁寧に取り組む



ロング昼休みの実現
(学級で集会活動、学校図書館で読書)



子供による主体的な学校生活の充実事例

生徒会

岡山県玉野市立莊内中学校

校則の譲渡と「ルール変更」が目的化しない学校づくり

- 令和3年、生徒から校則改定が具申され、全校生徒での協議を開始。翌年、生徒会長から校則譲渡の具申書が校長あてに提出され、同年後期に**校則譲渡式により校則を廃止、校則は「生徒会会員心得」に**。自分たちの社会を自分たちで守るために、生徒たちは自分たちの行動指針を生徒会として作成している。
- 生徒会活動では、**生徒の自治的な組織の確立と権限の明確化**を図り、各学級の意見は毎月行われる生徒会定例会で代議員から執行部に届けられる。執行部は、全校からの意見を踏まえて各種委員会の取組を検討するという手続きを踏む。
- また、**学校づくりの責任を果たすため、学校生活上のルールを徹底的に議論する**中心的な場として、「ルールメイキングサミット」を毎年実施。**生徒会のスローガンである「愛され 応援される人へ」を常に考えながら、「心得」に入れるべきか、配慮で解決可能か等を議論**している。

学級における話し合いの様子



生徒会定例会の様子



ルールメイキングサミットの様子



東京都板橋区立高島第一小学校

「みんなでつくる運動会」の実施

- 代表委員会では、「運動会を通して、全校のみんなの心を1つにしたい」という願いから、全校で取り組める工夫について担当教師と代表委員会の児童が、かけられる時間や材料、予算等を確認しつつ検討。
- 各学年に協力してほしい内容を整理し、自分たちで全校へ依頼。例えば、1年生は輪飾り、2年生はお花紙で花つくりなどに取り組み、全校児童が運動会への意気込みを短冊に書くなど、全員が参加できる取組を実施。
- これまでの高学年が中心となった運営協力ではなく、全校児童が参画することで、低学年においても当事者意識が芽生え、運動会への意欲の高まりにつながった。

代表委員会における話し合い



全校児童への周知



全校児童による装飾



埼玉県行田市立下忍小学校

子供による修学旅行「保護者説明会」の実施

- 学級活動（3）^(※)の授業として、自分自身のよさを見つめ直すとともに、互いのよさや頑張っていることを伝え合い、自分の強みなどを再確認し、自己肯定感を高めた。
- これからの生活でどのように自分のよさを生かしていくかの意思決定の過程で、まもなく実施する修学旅行でも自分のよさを生かせる旨助言したところ、「保護者への説明会も自分のよさを生かして、自分たちで説明したい」と子供たちから提案。校長とも協議し、説明会で子供たちの出番を設定した。
- 責任をもって準備を進め、当日は自分たちで決めた約束や調べたこと等について、丁寧に説明したり、保護者からの質問に答えたりする姿が見られた。

(※) 一人一人のキャリア形成と自己実現

学級活動（3）において
自分や友達のよさを生かす
行動目標を意思決定

よさを生かして役割を分担し、
責任をもって準備

話し合って決めた約束や
調べたことを保護者へ説明

